

令和6年9月7日(土)付



目が見えないななえさんとこうじさんは仲のよい夫婦です。ななえさんは、子どもがほしいと思うようになりました。こうじさんより、白杖を使って歩くことが上手ではありません。でも育児には外出も必要。そこで盲導犬と暮らすことを決めました。

「ベルナの目はななえさんの目」(郡司ななえ、織茂恭子さく、童心社)



ようとしたりすると断られます。ベルナとの生活はどうなっていくのでしょうか。盲導犬は、介助犬、聴導犬と並んで身体障害者補助犬です。この絵本が出版されたのは1996年。現在は2002年10月施行の身体障害者補助犬法で、補助犬の同伴を施設が拒否することは禁止され、作品に描かれている

ベルナの目はななえさんの目 (童心社)

障害者の生活助ける存在



「ベルナの目はななえさんの目」(郡司ななえ、織茂恭子さく、童心社)



「ベルナの目はななえさんの目」(郡司ななえ、織茂恭子さく、童心社)

「ベルナの目はななえさんの目」(郡司ななえ、織茂恭子さく、童心社)

よつな事例は法律違反に当たります。読み聞かせでは「ななえさんがバスに乗れなくてかわいそう」と心情に寄り添っておしまいではなく、盲導犬など仕事をする犬は、障害のある人にとって大切な存在であり、今では法律でしっかりと守られていることを伝えましょう。スーパーやレストランの玄関などに貼ってある補助犬マークを「これは何だろう」と話題にするのもいいですね。ちなみに、補助犬マークは「補助犬が入れる」という意味ではなく、補助犬や補助犬が同伴できることを知っているという、施設側の当然の意識や理解をあえて示すものです。マークがなくても、法律に基づいて補助犬は同伴できます。小学校の道徳科などで、視覚障害や盲導犬が扱われることがよくあります。しかし、国内で利用を待つ視覚障害者約3千人に対し、活動している盲導犬は800頭ほど。供給が全く追いついていません。育成にはお金も時間かかり、育成スタッフも足りていません。子どもたちは盲導犬を実際に見たこともないのに、「視覚障害者は盲導犬を使っているものだ」と認識してしまいがちです。視覚障害者の生活のお助けツールは盲導犬だけではなく、点字や点字ブロック、「ピヨピヨ・カッコー」「とおりゃんせ」などの音で青信号を伝える音響信号など、さまざまなものがあると、普段の生活の中で気付かせてほしいと思います。(島根県立大人間文化学部 水内豊和准教授)

土曜掲載



1963年、オランダの絵本作家レオ・レオニさんの作品です。69年には谷川俊太郎さんの翻訳で日本でも出版され、77年以降は小学2年生の国語の教科書にも採用されているので、多くの方がご存じでしょう。

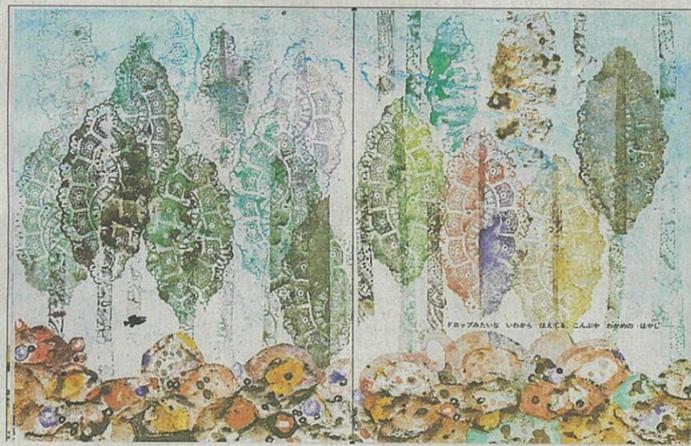
「スイミー」の書影(作レオ・レオニ、訳 谷川俊太郎、好学社)



魚たちを追い払ったストーリーもいるでしょう。一を思い浮かべると思いま 改めて読み返すと、「ひろ

スイミー (好学社)

個の多様性を包み込む



「スイミー」の一場面(作レオ・レオニ、訳 谷川俊太郎、好学社)

い うみの どこかに、ちい さな さかなの きょうだい

たちが たのしく くらして た。みんな あかいのに、一

ひ手に取って読んでみてくだ さい。そして、スイミーを讀

み聞かせる時には、協力する ことの大事さはもちろんです が、自分や家族、友だちの得 意なこと話題にし、気づか せてあげると良いでしょう。 自分自身についての肯定的 な理解は、自己選択や自己決 定、その先にある自己実現 に大きく影響します。レオニ

これは、今で言う「ダイバ ーシティー&インクルージョ ン(D&I)」、つまり個々 の多様性を尊重し、それらを 包み込む寛容な社会が重要だ というメッセージが込められ ていた、としたら言い過ぎで しょうか。

これは、レオ・レオニさん の『フレデリック ちよつと かわった のねずみの は なし』にも通じますので、ぜ

うね。(島根県立大人間文化学部 ・水内豊和准教授)

土曜掲載



「くうちゃん」といれに
いきます けんけんけん
つ」「ぼつちゃん は くつし
たを はきます くうちゃん
は ぎそくを はきます」
くうちゃんが、きょうだい
のぼつちゃんとともに、朝起
きて着替えをして、トイレに
行って、ご飯を食べて、友達
と学校に通う、そんな日常が
描かれています。続編の「く
うちゃん うみにいく」では、
家族で海水浴にも行きます。

作者の前川楓さんは、3大
会連続のパラリンピック女子
走り幅跳び日本代表選手で
す。バスケットボールに夢中
だった中学3年生の時、愛犬
と散歩中に事故に巻き込ま
れ、右の太ももから下を切断
します。でも、大好きなロック
バンドのライブに行つてジャ
ンプしたいと思ひ、義足歩行
の練習を決意したそうです。
絵本「くうちゃん いった
らっしゃい」



「くうちゃん いったらっ
しゃい」(まえがわかえで
さく・え、白順社)

くうちゃん いったらっしゃい (白順社)

義足の魅力を伝えたい



くるっと うらがえて びとっ くるくる はけた はけた

「くうちゃん いったらっしゃい」(まえ
がわかえで さく・え、白順社)

「くうちゃん いったらっしゃい」は、愛犬のくう
ちゃんをモデルにした義足の
子犬の物語です。作中の義足
は、前川さんが競技で使つて
いる義足と同じようにカラフ
ルでかわいいものとなってい
ます。
絵本を制作したきつかけ
は、アスリートとして小、中
学校で講演した時に、子ども
たちから「義足はどうやって
つけるの」「お風呂はどうや
つて入るの」といった質問が
たくさん来たことです。
前川さんは視力の弱い人が
眼鏡をかけること、足がな
くて義足をつけることは一
緒の感覚だと感じているの
で、子どもたちが小さい時か
ら義足に触れる機会がもつと
あれば、理解が変わっていく
のではないかと思ひ、義足の
魅力を伝えようと絵本を作り
ました。
足がなくなつて、義足があ
れば歩くことができるし、自
分が望むライブにも行けたり
スポーツもできる。働いたり、
スポーツ大会で活躍してみん
なに元気を与えたりする、く
うちゃんや前川さんのポジテ
ィブなメッセージが読み手に
伝わってきます。
パラリンピックは、世界最
高峰の障害者スポーツの総合
競技大会。前川選手も出場し
たパリパラリンピックは、8
月28日から9月8日まで、オ
リンピックに続いてフランス
・パリで開かれ、走り幅跳び
も含む全22競技が行われまし
た。ぜひ話題にしてみてください。
(島根県立大人間文化学部
・水内豊和准教授)
|| 土曜掲載 ||



「まんまるかぞくは、みんながまんまる。ふとつちよくんも おちびさんも、みんながまんまる。」
そんな家族の下に、ただ一人、四角い形をした「かつくん」が誕生します。
「きみは、みんなと形がちがうけど、おとうさんとおかあさんは、きみのことが、だいすきだよ」とお父さんとお母さんは優しく言いました。しかし、かつくんは

まんまるな他の子どもたちから、仲間外れにされてしまいます。

「ボク…どうして、しかくいんだらう。ほかのみんなは、まんまるなのに…」

でも、あることをきっかけに、みんな仲良しになります。その出来事とは？

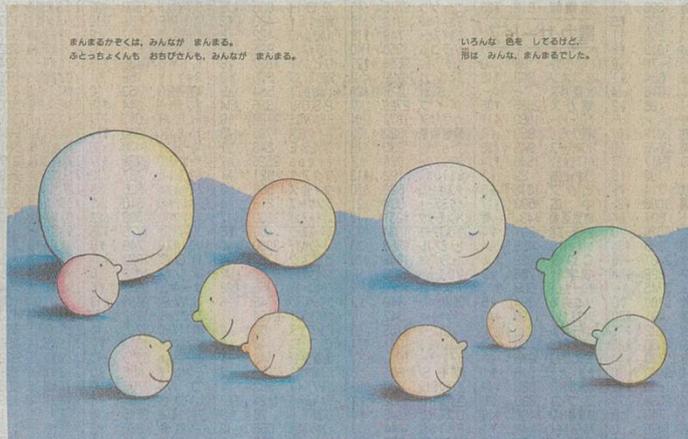
作品の原題は「Little e Cube and the e All-rounder」



「かつくん どうしてボクだけしかくいの?」(クリスチャン・メルベユ文、ジュース・ゴフィン/絵、乙武洋匡/訳、講談社)

かつくん どうしてボクだけしかくいの? (講談社)

特異を尊重し支え合う



「かつくん どうしてボクだけしかくいの?」(クリスチャン・メルベユ文、ジュース・ゴフィン/絵、乙武洋匡/訳、講談社)

s」。作者はベルギーの作家で、日本語訳は『五体不満足』でおなじみの乙武洋匡さんです。

乙武さんはユーチューブで、小学校での思い出を話していました。他の子と同じようにびしょぬれになって、雑巾で床の拭き掃除をしていると、担任の先生は「みんなと同じことをしなくても、自分の得意な別のことでクラスに貢献したらいいよ」と、掃除の時間には得意なワープロでの文書作成を任せたとそうです。

このエピソードは多様性を理解し、誰もが特異(ユニーク)を尊重され、それぞれの得意によって支え合う、インクルーシブ社会の在り方を教えてくれます。

幼児期から学齢期に車いすユーザーや補聴器を装着して

いる人、肌や髪の色が異なる人などに出会い、世の中には自分とは違う人がいると気付くことは大切です。ただ、違いを単に「○○がない人」「○○ができない人」とネガティブに捉えて終わるのではなく、多様な価値、つまり特異(ユニーク)と捉え、そして特異を得意へと価値付けていくために、周りの大人が意識して子どもに関わる必要があります。

「いろいろ いるよ。まんまる、ふとつちよ、しかくに、おちび。みんな、みんな、ちがうけど、みんな、みんな、あそぼうよ」という最後の一文を、ぜひお子さんと一緒に味わってみてください。

(島根県立大人間文化学部 准教授・水内豊和)

|| 土曜掲載 ||